

日本大学
生物資源科学部

校友会会報

2020年(令和2年) 第73号



グラウンドから見た左から体育館、本館、12号館

《目次》

学部長挨拶、会長挨拶	2	いもづる会(食品ビジネス学科)	13
令和2年度総会・講演会・懇親会	3	あすなろ会(森林資源科学科)	14
平成31年(令和元年)度校友会会計決算書	4	桜水会(海洋生物資源科学科)	15
令和2年度校友会会計予算書	4	工学会(生物環境工学科)	16
校友会だより(富嶽会)	5	F T会(食品生命学科)	17
校友会だより(紫友会)	6	拓友会(国際地域開発学科)	18
校友会だより(角笛会)	7	応用生物科学科校友会(応用生物科学科)	19
校友会だより(満喜葉会)	8	くらしの生物学科校友会(くらしの生物学科)	20
富嶽会(生命農学科)	9	支部だより(宮城県支部、山形県支部)	21
紫友会(生命化学科)	10	支部だより(神奈川県支部)	22
角笛会(獣医学科)	11	校友会役員名簿、編集委員名簿	23
満喜葉会(動物資源科学科)	12	校友会からのお知らせ	24

「コロナ禍での生物資源科学部」

日本大学生物資源科学部 学部長

大矢 祐治

校友の皆様におかれましてはこれまでにない状況の中で、それぞれご活躍のことと思います。日本大学生物資源科学部校友会会報第73号の発刊に当たり学部近況をお知らせし、ご挨拶とさせていただきます。

本学部もコロナ禍において、前年度末から新年度の大変重要な時期に、経験したことのない対応に迫られました。大変残念なことに、卒業生に対し従来のようなかたちで式典や祝宴を行うことができず、また新入生をこれまでと同じようにキャンパスへ迎えることができませんでした。現在、授業もウイルスの感染予防の観点から、Web配信を中心に実施しています。長年、教員は教室で学生と対面して講義をしてきましたが、この当たり前と思っていた形式の講義ができず、学生の皆様には戸惑いのご心配をおかけしたと推測されます。

ただ、このような状況下の中でも

本学部は学生のために様々な努力を重ねてまいりました。例えば、キャンパス内にウイルスを持ち込まないようにするため、すべての入構者に対してマスクの着用を義務づけ、大型スクリーンの検温システムを導入し、各校舎の入口には手指消毒用のスプレーを設置して学部内の安全性を確保しています。また、Web講義では教員が個々の学生からの質問に対して懇切丁寧に対応し、これまで以上に充実した教育ができるよう努力しています。そして、今後もwithコロナの時代において、図書館・学生食堂の利用、奨学金をはじめとした修学支援、就職支援、学生相談室の利用など、各種学生サービスの充実と向上に注力してまいります。

しかし、依然としてコロナウイルスの猛威はおさまる気配がなく、学部内においても見通しの立たないこ



とが多々あります。このような状況下においても時代を先取りした特徴ある教育・研究をさらに発展させ、教職員が一丸となって学生のために邁進してまいります。校友の皆様におかれましても、引き続き母校の発展のために温かいご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。末筆ではありますが、皆様におかれましても健康には十分にご留意され、ご自愛くださいますようお願い申し上げます。

「新たな気持ちで」

日本大学生物資源科学部校友会 会長

内田 俊太郎

日本大学生物資源科学部校友会の会員の皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

会報第73号の発刊に当たり学部校友会の近況をお知らせし、ご挨拶とさせていただきます。

今年は日本をはじめ世界全体が新型コロナウイルスの危機に直面し緊急事態に陥っております。学部校友会も3月と6月に開催する幹事会是对面式で開催することができず、すべて書面による審議・承認をせざるを得ませんでした。幸い、各分会の幹事のご協力により無事令和元年度の事業報告と同決算報告及び令和2年度の事業計画案と同予算案をご承認いただきました。

さらに、今年は任期満了に伴う役員改選の年に当たり6月の幹事会に

おいて今後3ヶ年の学部校友会役員全員のご承認をいただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

なお、例年7月に開催しています通常総会は、100名程度の会員が一堂に会する会議の開催は不可能と判断し、中止とせざるを得ませんでした。

また、長年の念願であったホームカミングデーを10月24日の藤桜祭初日に開催すべく準備を進めておりましたが残念ながら藤桜祭の開催が中止となりましたので、令和3年度に改めて第1回ホームカミングデーを開催したいと考えております。

いずれにしても、この新型コロナウイルスが一日も早く終息することを祈るばかりです。

最後になりましたが、新年度に先だって、去る2月に開催されました会



長選出会議において皆様方のご支援ご支持をいただき学部校友会会長に再選されました。令和5年3月の任期満了まで学部校友会のさらなる発展に尽力いたしますので、今後とも会員の皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和2年度日本大学生物資源科学部校友会通常総会及び懇親会について

令和2年度の通常総会及び懇親会は令和2年7月11日(土)に開催を予定していましたが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止としました。

通常総会前の3月28日に開催予定であった令和元年度第4回幹事会及び6月27日に開催予定であった令和2年度第1回幹事会も一堂に会しての開催は困難と判断し中止とし、持ち回り幹事会を開催しました。

例年通常総会では、前年度の事業実績及び収支決算並びに当年度の事業計画案及び収支予算案の最終承認を得ていますが、令和2年度は最終承認を得ることができませんので、この扱いについて日本大学校友会本部に意見を求めましたところ、令和2年度は幹事会での承認を最終承認とし、事業の遂行及び予算の執行については可とする旨の回答を得ました。

これにより、令和2年度の事業計

画案及び収支予算案は、持ち回り幹事会での承認日である令和2年4月7日付けで最終承認を得たこととし、令和2年4月1日に遡って施行しました。

平成31年(令和元年)度の事業報告及び収支決算報告は、同じく持ち回り幹事会での承認日である令和2年7月11日付けで最終承認を得たこととしました。

なお、令和2年度は任期満了に伴う役員改選の年に当たり、分会選出幹事の交代及び監査役の交代が第1回持ち回り幹事会において審議されそれぞれ承認されました。任期は令和2年4月1日から令和5年3月31日までの3ヶ年です。

令和2年度からの役員名簿は23ページをご覧ください。

また、例年懇親会の席上で行っておりました表彰につきましては、同幹事会で承認いただいた令和元年秋の

叙勲受章者である徳山龍明元学部長と令和2年春の叙勲受章者である前監査役の渡部敏名誉教授のお二方に対し賞状と記念品をご自宅にお贈りしました。



平成31年(令和元年)度 日本大学生物資源科学部校友会 収支決算書

(自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)					(金額単位：円)
科 目	31(元)年度予算 (A)	31(元)年度決算 (B)	予算と決算との比較 (C=A-B)	摘 要	
1. 前年度繰越金	20,230,379	20,230,379	0	現 42,924円、預 20,187,455円(普 7,187,455円、定 13,000,000円)	
2. 会費収入	41,457,000	41,454,000	3,000		
1) 準会員還付金収入	40,950,000	40,950,000	0	6,825名 × 6千円	
2) 正会員還付金収入	507,000	504,000	3,000	168名 × 3千円	
3. 寄附金収入	0	0	0		
4. 祝金等収入	1,200,000	1,100,000	100,000	総会・懇親会の会費及び祝金	
5. 雑収入	130,000	75,212	54,788	預金利息 1,212円、幹事会後の懇親会会費 74,000円	
当年度収入合計	42,787,000	42,629,212	157,788		
収入合計	63,017,379	62,859,591	157,788		
(支出の部)					(金額単位：円)
科 目	31(元)年度予算 (A)	31(元)年度決算 (B)	予算と決算との比較 (C=A-B)	摘 要	
1. 分会交付金	19,992,000	19,469,000	523,000	初回還付金 40,200千円 × 1/2(大学院分 631千円除く)	
2. 経常費	11,740,000	9,693,894	2,046,106		
1) 人件費	5,000,000	4,720,000	280,000	事務局勤務者に係る給与	
2) 本部分担金	470,000	470,000	0	日本大学校友会本部に対する支部会費及び役員会費	
3) 事務局運営費	1,200,000	1,211,753	▲ 11,753	コピー機リース料、事務機器購入及び消耗品等購入諸経費	
4) 通信費	2,000,000	1,339,702	660,298	切手・葉書購入、都道府県支部等への資料発送費等	
5) 会合費	700,000	376,312	323,688	幹事会、執行役員会、各種会合(5委員会除く)に係る諸経費	
6) 交際費	1,300,000	795,008	504,992	分会、都道府県支部、他学部校友会総会等に係る祝金等	
7) 旅費交通費	1,000,000	718,865	281,135	出張旅費、運営補助費(5委員会除く)等	
8) 支払手数料	70,000	62,254	7,746	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料	
3. 事業費	14,500,000	13,336,501	1,163,499		
1) 総会費	1,800,000	1,404,876	395,124	総会・懇親会開催諸経費	
2) 広報費	3,500,000	4,043,100	▲ 543,100	創立70周年記念誌・会報印刷、ホームページ管理費用等	
3) 総務委員会運営費	20,000	4,000	16,000	委員会開催経費及び運営補助費	
4) 財務委員会運営費	20,000	2,000	18,000	委員会開催経費及び運営補助費	
5) 企画委員会運営費	20,000	0	20,000	委員会開催できず。	
6) 広報委員会運営費	70,000	33,338	36,662	委員会・会報編集委員会開催経費及び運営補助費	
7) 組織委員会運営費	50,000	20,747	29,253	委員会開催経費及び運営補助費	
8) 記念事業補助費	100,000	0	100,000	記念事業開催できず。	
9) 準会員対応費	8,000,000	7,331,600	668,400	奨学金及び藤枝祭、スポーツフェスタ等への支援	
10) スポーツ振興対応費	100,000	50,000	50,000	日本大学スポーツ振興特別委員会への寄付金	
11) 箱根駅伝対応費	120,000	134,000	▲ 14,000	箱根駅伝のルール説明会、応援等に係る費用	
12) 組織拡充計画費	500,000	200,000	300,000	都道府県支部の運営資金の一部補助費	
13) 日本大学創立130周年募金	100,000	100,000	0	日本大学創立130周年記念事業募金(R4年度まで10ヵ年)	
14) 歴史展示室開設資金	50,000	0	50,000	資金需要発生せず。	
15) ホームカミングデー経費	50,000	12,840	37,160	他学部のホームカミングデー視察費用	
4. 予備費	1,000,000	0	1,000,000	資金需要発生せず。	
当年度支出合計	47,232,000	42,499,395	4,732,605		
次年度繰越金	15,785,379	20,360,196	▲ 4,574,817	現 134,766円、預 20,225,430円(普 7,225,430円、定 13,000,000円)	
支出合計	63,017,379	62,859,591	157,788		

令和2年度 日本大学生物資源科学部校友会 収支予算書

(自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)					(金額単位：円)
科 目	令和2年度予算 (A)	令和元年度予算	令和元年度決算(B)	元年度決算との比較 (C=A-B)	摘 要
1. 前年度繰越金	20,360,196	20,230,379	20,230,379	129,817	
2. 会費収入	40,875,000	41,457,000	41,454,000	▲ 579,000	
1) 準会員還付金収入	40,386,000	40,950,000	40,950,000	▲ 564,000	40,386千円≒平均還付金 42,942千円 × 伸び率 99% × 調整率 95%
2) 正会員還付金収入	489,000	507,000	504,000	▲ 15,000	489千円≒平均補助費 517千円 × 伸び率 100% × 調整率95%
3. 寄附金収入	0	0	0	0	
4. 祝金等収入	1,200,000	1,200,000	1,100,000	100,000	総会・懇親会等の会費及び祝金
5. 雑収入	100,000	130,000	75,212	24,788	
当年度収入合計	42,175,000	42,787,000	42,629,212	▲ 454,212	
収入合計	62,535,196	63,017,379	62,859,591	▲ 324,395	
(支出の部)					(金額単位：円)
科 目	令和2年度予算 (A)	令和元年度予算	令和元年度決算(B)	元年度決算との比較 (C=A-B)	摘 要
1. 分会交付金	19,790,000	19,992,000	19,469,000	321,000	19,790千円≒(還付金 40,386千円 × 初回還付率 98%) × 1/2
2. 経常費	11,740,000	11,740,000	9,693,894	2,046,106	
1) 人件費	5,000,000	5,000,000	4,720,000	280,000	事務局勤務者給与、アルバイト賃金
2) 本部分担金	470,000	470,000	470,000	0	日本大学校友会本部に対する支部会費及び役員会費
3) 事務局運営費	1,200,000	1,200,000	1,211,753	▲ 11,753	コピー機リース料、その他事務消耗品等に係る諸経費
4) 通信費	2,000,000	2,000,000	1,339,702	660,298	分会の会報発送費の一部支援、関係先への資料発送費等
5) 会合費	700,000	700,000	376,312	323,688	幹事会、執行役員会、各種会合(5委員会除く)に係る諸経費
6) 交際費	1,300,000	1,300,000	795,008	504,992	分会、県支部、他学部校友会総会等に係る祝金等
7) 旅費交通費	1,000,000	1,000,000	718,865	281,135	出張旅費、運営補助費(5委員会分は除く)
8) 支払手数料	70,000	70,000	62,254	7,746	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料
3. 事業費	12,900,000	14,500,000	13,336,501	▲ 436,501	
1) 総会費	1,700,000	1,800,000	1,404,876	295,124	総会・懇親会開催諸経費
2) 広報費	2,200,000	3,500,000	4,043,100	▲ 1,843,100	校友会会報・パンフレットの印刷、ホームページ管理費
3) 総務委員会運営費	20,000	20,000	4,000	16,000	委員会開催経費及び運営補助費
4) 財務委員会運営費	20,000	20,000	2,000	18,000	委員会開催経費及び運営補助費
5) 企画委員会運営費	20,000	20,000	0	20,000	委員会開催経費及び運営補助費
6) 広報委員会運営費	70,000	70,000	33,338	36,662	委員会・会報編集委員会開催会議及び運営補助費
7) 組織委員会運営費	50,000	50,000	20,747	29,253	委員会開催経費及び運営補助費
8) 記念事業補助費	100,000	100,000	0	100,000	分会及び県支部の記念式典開催に伴う補助
9) 準会員対応費	8,000,000	8,000,000	7,331,600	668,400	学部校友会が行う奨学金、準会員支援の原資
10) スポーツ振興対応費	100,000	100,000	50,000	50,000	日本大学スポーツ振興関連諸費用
11) 箱根駅伝対応費	120,000	120,000	134,000	▲ 14,000	箱根駅伝の応援に係る諸費用
12) 組織拡充計画費	300,000	500,000	200,000	100,000	都道府県支部の運営資金の一部補助等
13) 日本大学創立130周年募金	100,000	100,000	100,000	0	日本大学創立130周年記念事業募金(R4年度まで10ヵ年)
14) 歴史展示室開設資金	50,000	50,000	0	50,000	記念展示室の開設準備費用
15) ホームカミングデー経費	50,000	50,000	12,840	37,160	ホームカミングデー開催準備費用
4. 予備費	2,000,000	1,000,000	0	2,000,000	(ホームカミングデー開催経費を含む)
当年度支出合計	46,430,000	47,232,000	42,499,395	3,930,605	
次年度繰越金	16,105,196	15,785,379	20,360,196	▲ 4,255,000	
支出合計	62,535,196	63,017,379	62,859,591	▲ 324,395	

校友だより

縁を信じて福井のために

植物資源科学科
平成29年度卒業 石井 大樹
福井市役所 園芸センター

私は植物資源科学科を卒業後、それまで福井県に1度も行ったことがありませんでしたが、業務内容に興味があったことと、この縁を信じて福井市役所への入所を決めました。現在は園芸技師として福井市園芸センターに勤務しています。園芸センターは福井市の園芸農業振興のために、市内の園芸農家に対して育苗や土壌分析、巡回指導などの営農支援、栽培技術の向上を目的とした講座や講習会の開催、試験研究を行っています。

私は野菜を担当しており、その中でも、当センターで開発した「金福・銀福すいか」、「きやろふく」の栽培指導や試験研究、普及拡大を行っています。試験研究で得られた知見をもとに、良質な種子や苗の生産・供給、各農家の状況に合わせた栽培指導を行い、園芸農家の方々とともに産地の醸成を目指しています。それだけではなく、試食販売や学校給食での提供、首都圏でのイベント販売などのPR活動や、農業協同組合と連携して県内外への販売先を確保するなど、市の特産品として認知度の向上に努めています。加えて、従来品種の品種改良にも取り組んでいます。

園芸センターの業務を行うためには、様々な植物の知識や、栽培・試験研究の技術などが必要で、毎日が勉強の日々ですが、私が植物資源科

学科で学んだこと、経験したことが基礎となって支えられていると感じています。

福井市の農業は水稲などの穀物が主流で、畑地の面積は5%程度とまだまだ低いのが現状です。月日を経つごとに自身の言葉の変化を感じつつ、縁のある福井のために、農業振興の一助となれるよう尽力していきます。



スイカの接ぎ木作業



金福・銀福すいか 立体栽培



スイカの玉つり作業

食の安全を求めて

農芸化学科(現:生命化学科)
平成5年卒業(平成8年大学院修了)
一般社団法人大日本水産会
国際・輸出促進部 部長代理
山口 隆宏

私が勤めている大日本水産会(大水)は、水産業の振興をはかることを目的として、明治15年に設立された水産の業界団体です。設立当初、水産伝習所(東京海洋大学)の開設や水産庁の設置などの活動を行い、現在は、漁業就労の支援、国際的な漁業問題の解決のための国際交渉、資源持続性を担保するための制度への支援および魚食普及の活動などを行っています。

現在、私は水産食品の安全性につ

いて取り組んでおり、腸炎ビブリオやノロウイルスなどの食中毒や硬質異物による食品事故の防止を目的としたHACCP(ハサップ)というシステムの普及と実践に取り組んでいます。HACCPとは食品等事業者が、食中毒の原因などを把握した上で、原料の受入から製品の出荷に至る全工程の中で、その食中毒の原因などを安全なレベルに低減させることのできる工程を管理し、製品の安全性を担保する衛生管理の手法です。これは国連のFAOとWHOの合同機関であるCodex委員会から発表された国際的に認められた手法です。

このため、海外に水産食品を輸出する際に輸出先国よりHACCPの運用が求められる場合があります。このため大水では、平成7年より輸出のためのHACCPの普及に取り組んで

きました。大水実施の講習会には約7,500名の受講終了者がおり、大水の認定制度によって約400社の企業がHACCPの認定を取得しています。2020年、この仕組みは輸出拡大を掲げる農林水産省と連携して取り組むこととなり、「一般社団法人日本食品認定機構」が設立されました。

私は、本機構の立ち上げメンバーの一人としてこの仕組みの構築を行い、同時に講習会の講師、現場での指導及び認定審査などを行っています。また、輸出先国対応として、米国等のHACCPのためのガイドラインの翻訳や米国・EUからの公的な査察への援助を行ってきました。現在、北海道から沖縄まで飛び回る毎日ですが、今後も水産食品の安全性向上と輸出拡大に取り組んでいきたいと考えています。



協議会の司会



職員研修会にて



認定楯

鳥類医療発展を目指して

獣医学科

1994年度卒業 海老沢 和荘

私は中学生の時に鳥の獣医師になることを決意し、日本大学獣医学科に入学しました。大学卒業後、鳥の病院への就職を希望していましたが、残念ながらその当時には勤務医を雇える鳥の病院はありませんでした。就職先に悩みましたが、私が鳥の獣医師希望であることに理解を示してくれる先生に出会うことができ、その先生の動物病院に就職し、休みを利用して鳥の病院へ見学に行き鳥の医療を学びました。当時は鳥の医療情報は少なく、手探りで治療法を試行錯誤している状態でした。鳥類医療の現状を知った私は、自分で医療を発

展させるしかないと決意し、卒業後2年で「横浜小鳥の病院」を開院しました。開院当時は原因や治療法が分からない疾患が多く存在しましたが、仮説と検証を繰り返し、設備投資を積極的に行い、鳥類医療発展に邁進してきました。現在では、少量検体での検査の確立、様々な疾患に対する治療法が確立され、多くの鳥を救うことができるようになりました。また私の想いに共感してくれる獣医師が当院で学び、開院することで日本各地に多くの鳥の病院が増えました。今では、当院で学んだ9人の獣医師が鳥の病院を開院しており、現在も鳥の病院開院を目指す獣医師が当院で学んでいます。

現在、私は臨床の現場に立つ傍らで、社会人大学院生をしています。獣医生理学／病態生理学研究室に所

属し、鳥の羽毛損傷行動の研究をしております。4年間の大学院の間に研究手法を学び、卒業後も解明されていない疾患についての研究を継続し、鳥類医療発展に貢献していきたいと思っています。



診察室にて



入院室にて



横浜小鳥の病院スタッフ一同

ミルクの力でお客様を元気に

動物資源科学科

2018年度卒業 安久 恭子

雪印メグミルク株式会社

私は2019年3月に動物資源科学科を卒業し、同年4月に雪印メグミルク株式会社に入社し京都工場へ配属されました。現在、ガセリ菌SP株ヨーグルト・牧場の朝シリーズ等の発酵乳充填ライン業務、関連設備のメンテナンス業務、作業管理業務等を担当し、安心・安全な商品を全国のお客様にお届けしております。

在学時代、酪農経営から乳牛の形

態生理、乳やその付加価値を高める乳酸菌の科学を学び、ミルクの持つ可能性、面白さを知りました。また、約2年間の乳酸菌研究に取り組んだ研究室生活では論理的な思考力が身につき、現在の業務に生かされています。例えば、ラインの途中で製品が転倒し詰まるトラブルが多い場合、製品が転倒するポイントはどこか、原因は何なのか仮説を立て現場で検証します。原因が判明したら改善して再度テストし、製品が転倒しない仕組みを作っていきます。このように、現場での改善活動のプロセスは研究活動とよく似ており、乳の専門知識と同様に業務に役立っております。

また工場では、学歴や雇用形態、背景等が異なる多くの方が働いているため、常に相手を尊重し、尊敬の念をもって接することを心がけています。みなさんが気持ちよく仕事ができれば、生産性が向上してお客様によりよい商品をお届けすることに繋がりますので、接し方が最も重要だと先輩方から学ぶとともに、自らも日々実感しております。

技術・人柄ともにまだまだ未熟で毎日が勉強の日々ですが、乳製品を通じてお客様に笑顔をお届けできるよう、これからも精進して参りたいと思います。



定時ラインチェックの様子



工場見学PR室にて



同期・先輩と(右手前が筆者)

富 嶽 会

生命農学科

連絡先：緑地環境科学研究室
0466-84-3511 事務局長 大澤 啓志
E-mail: osawa.satoshi@nihon-u.ac.jp

令和2年度富嶽会総会の開催

令和2年5月16日(土)に開催予定であった令和2年度富嶽会総会は、新型コロナウイルス感染拡大の防止のため中止となりました。役員改選、令和元年度事業報告・決算報告・監査報告および令和2年度事業計画案・予算案の審議につきましては、理事会内のメール会議で審議を進めています。承認された場合、内容を富嶽会HPに掲載いたしますので、どうぞご覧ください。

活動経過報告

準会員である現役学生に対する支援を毎年行っています。学科1-2年生には、富嶽会のロゴマークと学科の略称であるAGBの文字がデザインされた



学科学生へ配付されたトートバック

紺色の丈夫なキャンパス素材のトートバックを配付しました。サイズが大きいので、実習時の荷物が全て入ります。

本年3月25日、128名が生命農学科を卒業して新たに富嶽会正会員の仲間入りをしました。令和元年度の卒業生には、富嶽会からの記念品として、黒地にロゴマークが刻印された名刺入れが贈られました。密集を防ぐため式典は中止となり、学位記等の授与が短時間で終わりました。この事態が収束しましたら、思い出や近況をゆっくり話せる機会があればと切に願います。

また、本年4月には139名の新入生を迎えました。例年、スポーツフェスタで着用する学科Tシャツを進呈していますが、スポーツフェスタを含む一連の行事が中止になりました。



卒業生に贈られた名刺入れ



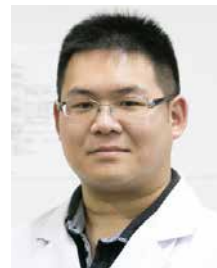
学生実験の様子

生命農学科の近況

令和2年3月末日をもって、岩野秀俊特任教授(応用昆虫科学研究室)、腰岡政二特任教授(農業生産技術研究室)、藤崎健一郎専任講師(緑地環境科学研究室)が定年退職されました。3名の先生方の永年にわたる教育・研究へのご尽力に感謝を申し上げますとともに、今後の益々のご健勝とご多幸をお祈りしております。なお、藤崎先生におかれましては、非常勤講師として専門科目の一部を引き続きご担当いただいております。

本年4月に助教に昇格した教員が2名いますので、研究テーマと昇格の抱負をご紹介します。東未来先生(農業生産技術研究室)は、ダリアの花の老化やペチュニアの花模様に関する研究を行っています。「研究で面白い成果を残せるよう、学生さんのキャンパスライフをより実りあるものにできるよう努めていきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。」とのことです。山本裕一先生(応用昆虫科学研究室)は、微小害虫の新規防除手段に関わる研究を行っています。「今回昇格できたのは、当学科の皆様の存在あっ

てこそだと思っております。今まで与えていただければありましたが、自身の講義を担当するということになり、少しでも学生のため、学科のためになるよう微力を尽くしたいと思います。」とのことです。若手の先生方のご活躍を祈念しております。



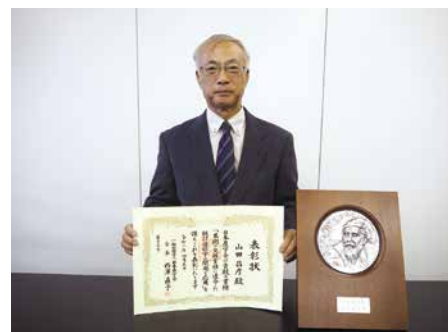
山本 裕一 助教



東 未来 助教

山田昌彦教授(遺伝育種科学研究室)の研究業績「果樹の交雑育種に適合した統計遺伝学の開発と応用」に対し、2020年度日本農学賞ならびに読売農学賞が授与されました。「日本農学賞」は、農学系の52学会・協会の集合体である日本農学会が授与を行っており、日本の農学研究仲間における最高の栄誉とされています。

新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、座学の授業は全てオンライン授業となっております。一方、三密を徹底的に排除した条件下で実験や実習などの対面授業を始めています。限られた時間ではありますが、意欲的に取り組む学生の姿が印象的です。



日本農学賞受賞 山田 昌彦 教授

富嶽会事務局より

本年より事務局長に大澤啓志教授、庶務理事に磯部勝孝教授、庶務に水田大輝専任講師が就任いたしました。今後ともよろしくお願い申し上げます。(穴戸理恵子)

紫 友 会

生命化学科

連絡先：発酵化学研究室

0466-84-3945 事務局長 荻原 淳

E-mail: ogihara.jun@nihon-u.ac.jp

令和2年度 紫友会

【令和2年度理事会および総会開催について】

定例の理事会は、理事の皆様のご出席を賜り開催するところですが、コロナ禍の影響により開催場所の確保並びに開催時期を確定することが困難となりましたため、本年は紙面開催となりました。また、議事の承認はgoogle form および郵送にて頂きました。令和元年度事業・決算報告が事務局より提案され承認されました。また、監事より会計監査を実施頂き、この結果について承認されました。次に令和2年度の事業計画・予算案等について、承認されました。紫友会総会は隔年にて例年12月頃に開催しておりました。本年令和2年は紫友会総会を開催する予定でしたが、コロナ禍の影響のため、開催場所の確保や開催の予告が困難な状況にあります。つきましては、紫友会会則第8条3に基づきまして、今年度の総会は本理事会をもって代えさせて頂くことを理事会に提案し、ご承認頂きました。今回の議事については、次回総会開催可能となりました際にご報告させて頂きます。このような開催方法となりましたこと、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

活動経過報告

【就活支援セミナー開催】

令和元年12月7日(土) 生命化学科3年次学生を対象に就活支援セミナーを開催しました。本セミナーは継続的な学生支援の一環として毎年実施しています。近年、本学科を卒業し、各業種で活躍の紫友会会員の先輩方19名の各人を取囲む座談会形式で行われました。就職活動前に考えて欲しいことなど社会人の立場から学生に有益な情報を提供することを目的とし開催しています。

【令和2年度 第27回紫友会奨学生決定】

理事会の同日に奨学生選考委員会より厳正に選考された以下9名の奨学生が決定しました。

2年次；阿部 菜都美、岸 涼介、今関 愛里咲

3年次；和田 真由、佐野 佑哉、荒井 慶太

4年次；有田 星花、平林 風歌、松本 悠希

【令和2年度 第7回紫友会特別賞】

同日の紫友会特別賞選考委員会により厳正に選考された以下4名が令和元年度第6回紫友会特別賞受賞者として承認されました。

1)奥江 紗知子(博士後期課程3年生)(受賞理由)第12回国際機能性食品学会(ISNFF2019)のFlash Talk Competitionに入賞

2)渡辺 高大(博士前期課程2年生)(受賞理由)第7回国際フードファクター会議(ICoFF2019)若手研究者奨励賞(Young Investigator Award; YIA)を受賞

3)片岡 涼輔(博士後期課程2年生)(受賞理由)第19回糸状菌分子生物学コンファレンス 第7回企業特別賞いいちこ特別賞を受賞

4)保坂 浩貴(博士後期課程3年生)(受賞理由)2019年日本応用糖質科学会東日本支部若手奨励賞を受賞



就活支援セミナー開催

生命化学科の近況

【在校生】

令和元年10月5日に紫友会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会が開催されました。熱戦の結果、栄養生理化学研究室が優勝しました。表彰式・懇親会には紫友会役員の皆様にもご同席いただき、懇親を深めることが出来ました。令和2年3月25日に令和元年度学位伝達式が開催され、生命化学科卒業生

126名が社会へ羽ばたきました。コロナ禍で入構が制限される中の講義室においての静かな伝達式となりました。同年4月から生命化学科1年次学生144名(男子91名、女子53名)を迎え入れ、現在、当学科には計534名(男子283名、女子251名)の学生が在籍しております。



ソフトボール大会優勝チーム：栄養生理化学研究室



盛り上がる学生たち

【学科教員動向】

令和2年4月1日付けで渡邊泰祐先生(発酵化学研究室)が准教授へ、山口勇将先生(食品化学研究室)が助教へ昇格されました。先生方の益々のご活躍を期待しております。これにより、学科全体では教員18名(教授7名、准教授3名、専任講師5名、助教2名、助手1名)、実習助手2名、合計20名の布陣で教育研究活動にあたっております。

紫友会事務局より

【事務局からのお知らせ】

本年度も会員並びに準会員のへの後援活動を実施していきたいと考えています。コロナ禍の影響の中、特に準会員の学生の皆様に今後どのような支援ができるか不透明な状況です。事務局では適時適切な支援活動を実施していきたいと考えています。今後とも皆様のご支援を御願い申し上げます。紫友会会員の皆様の近況や同期会等のご様子を事務局まで御知らせ下さい。紫友会のホームページは<http://www.nihon-u-shiyukai.jp>からご覧いただけます。また、インターネット上で「紫友会」と検索してください。同ウェブ上で連絡先等変更の手続きができますのでご活用ください。

(荻原 淳)

角 笛 会

獣医学科

連絡先：獣医病態生理学研究室
0466-84-3633 事務局長 鯉江 洋
E-mail: koie.hiroshi@nihon-u.ac.jp

令和2年度 角笛会総会・ 日本大学獣医学会 合同開催および角笛会主催 動物病院就職説明会の中止

令和2年度角笛会総会ならびに日本大学獣医学会を合同開催する予定で準備を進めておりましたが、国内の新型コロナウイルス感染症の拡大に歯止めがかからない状況にあることから、開催の可否について皆様のご意見をいただき、令和2年度角笛会総会ならびに日本大学獣医学会の合同開催を中止することといたしました。

また、同日に開催予定であった獣医学科学生（準会員）のための動物病院就職説明会についても、同様に中止することといたしました。

令和2年度 角笛会総会（書面総会）

令和2年7月17日に、紙上にて令和2年度角笛会総会を開催し、7月30日までご意見をいただきました。令和元年度事業活動および会計収支報告、令和2年度事業活動および予算案等が審議され、全員一致で承認されました。角笛会の発展に貢献した角笛会功労者として、村上守夫氏（福島県）、篠崎幸治氏（栃木県）、宮崎次朗氏（岐阜県）、長崎英二氏（高知県）、野口弥市氏（長崎県）、石原貢一氏（熊本県）、川泉邦雄氏（愛信桜会）、鈴木敏夫氏（愛信桜会）、吉村武明氏（愛信桜会）、愛信桜会（本部）、長尾壮七先生（本部）、津曲茂久先生（本部）の11名と1団体に賞状と記念品が授与されました。また、堀口隆嘉氏（東京）、豊川達憲氏（東北海道）の2名に角笛会特別功労賞が授与されました。

*愛信桜会は、昭和32年入学もしくは昭和36年卒業の校友によるクラス会です。

第18回日本大学医療系同窓・ 校友学術講演会の開催

第18回日本大学医療系同窓・校友学術講演会（医学部同窓会、歯学部同窓会、松戸歯学部同窓会、薬学部校友会、獣医学科校友会・角笛会）が、令和元年9月28日（土）「スポーツ」をテーマにシンポジウム形式で開催されました。第11回から共通テーマを設けており、講演後に開催する総合討論で自由な情報交換が行われました。今回は歯学部が当番幹事で、日本大学 学長 大塚吉兵衛先生のご臨席を賜り、来賓としてご挨拶を頂戴いたしました。角笛会の講演は、日本中央競馬会 栗東トレーニング・センター 競走馬診療所 管理課長の草野寛一先生（平成9年卒）が「King of Sports（競馬）を支える科学的な活動の紹介」と題して発表しました。講演会後の懇親会は、学部を超えた懇親の輪が広がっておりました。

本年度は、松戸歯学部同窓会を当番幹事に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止することになりました。

日本大学医療系同窓・校友学術講演会は毎年9、10月頃開催し、日本大学医療系学部の校友が集う唯一の講演会です。ぜひ、ご参加ください。



講演する草野 寛一 先生

渡部敏名誉教授 「瑞宝小綬章」受章

本学名誉教授 渡部敏先生は、獣医学の教育・研究において、獣医生化学の学生教育は言うに及ばず、コンピューター制御による実験動物用の搾乳機を考案・開発し、ラット、マウスの人工搾乳に世界で初めて成功しました。その成果として、この搾乳機を

応用し、絶滅の危機に瀕しているジャイアントパンダ用の搾乳機を開発し、パンダの産仔に初乳の人工哺乳に成功するなど獣医学の発展に貢献しました。これら教育研究に対する功績に対し、令和2年春の叙勲において、「瑞宝小綬章」受章の荣誉に輝きました。



渡部 敏 名誉教授

人事

令和元年11月21日、鈴木由紀准教授（獣医衛生学研究室）が逝去されました。令和元年9月をもって齋藤光芳専任講師（獣医薬理学研究室）が退職されました。本年3月をもって杉谷博士再雇用教授（獣医生化学研究室）、泉對博特任教授（獣医伝染病学研究室）が退職されました。本年4月に合屋征二郎助教（獣医放射線学研究室）、高橋直紀助教（獣医解剖学研究室）が採用されました。坂井学先生（新設：獣医消化器病学研究室）が教授に、岡林堅先生（獣医生化学研究室）、丸山治彦先生（獣医臨床病理学研究室）が准教授に、大野真美子先生（産業動物臨床学研究室）が専任講師に、増田絢先生（医動物学研究室）が助教に昇格されました。また、加納墨准教授が獣医皮膚病学研究室（新設）に異動されました。



合屋 征二郎 助教



高橋 直紀 助教

（大野真美子）

満喜葉会

動物資源科学科

連絡先：動物組織機能学研究室

0466-84-3702(直通) 事務局長 園田 豊

E-mail: sonoda.yutaka@nihon-u.ac.jp

令和2年度満喜葉会 —活動経過報告—

【役員協議会の開催】

本年は役員改選の年に当たりますが、今般の状況により、役員会、総会の開催を断念し、山本会長、小杉、植村、横山副会長の役員および小泉事務局長で役員協議会を6月30日に町田の会議室スパーシーにおいて開催しました。協議事項として、

- (1) 新役員構成について
- (2) 本年度総会に代わる紙上総会の実施について

(3) 本年度の事務協議について
が挙げられ、(1) 新役員の構成として、会長：小杉幸彦(昭和42年卒)、副会長：神山衛二(43年卒)、山本捷(44年卒)、松葉(旧姓宮内)晋美子(48年卒)、植村光一郎(53年卒)、横山次郎(60年卒)の5名、会計監事として、太田靖彦(36年卒)、中鉢紀久雄(46年卒)、佐藤常男(47年卒)の3名が推挙されました。また、新事務局長には、園田 豊当学科専任講師(59年卒)が就かれました。

(2) については、(1) の案と共に、事業計画、予算案を紙上総会にて役員・会員の方々に可否を問う予定となっています。本会報発行には間に合いませんでしたが、今暫くお待ちください。

学科の近況

【スポーツフェスタ、新入生歓迎会】

本年度は、スポーツフェスタ、その後に例年行われている新入生歓迎会は中止となりました。

【卒業生、新入生および学内状況について】

本年3月25日、143名が動物資源科学科を卒業し、新たに満喜葉会

正会員の仲間入りをしました。また、本年4月には138名の新生を迎え、在籍者は4学年合計で560名(6月1日現在)となっています。

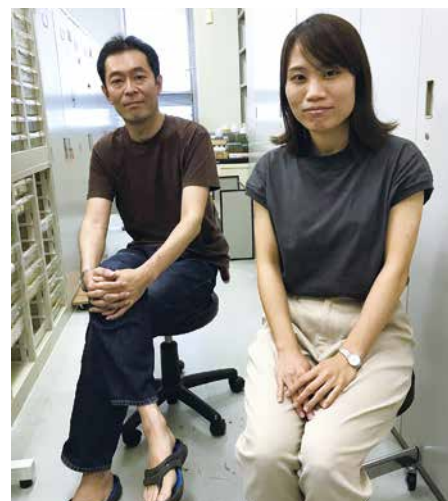
新型コロナウイルスの感染拡大、政府による緊急事態宣言に伴い、新学期開始から学部キャンパスへの入構は原則的に禁止されたため、入学式、新入生ガイダンス等も中止となりました。その後、「オンデマンド授業」(Web上の授業)という形で授業が開始されたのは準備等の影響で5月18日にずれ込み、前期終了は9月5日になる予定です。現在(8月5日)は、大学院生、研究室所属3、4年生の入構は限定的に認められていますが、1年、2年次学生を対象とした講義、実験・実習は現時点では開始できていない状況です。

【学科人事について】

令和2年3月末日をもって、甲斐藏教授、小林信一教授が委嘱任期満了のため、小泉聖一教授、長嶺慶隆教授が定年のため退職されました。また、平成27年4月より実習助手として5年間に亘って学科事務等にご尽力戴いた神原サキさん(平成27年3月本学科卒業)は、本年3月31日付けで退職されました。長年、学科教育のみならず、学科や満喜葉会運営に対しても多大なるご尽力をいただきました。誠にありがとうございました。

小泉、長嶺両先生は、特任教授(任期1年)として本年4月より再び任用されています。

本年4月1日付で、明主 光(ミヨウシュヒカリ)先生が助手として採用されました(写真)。明主助手は、平成26年3月に当学科を卒業、同年4月に大学院博士前期課程に進学、平成29年4月に博士後期課程へ進学された後、本年3月25日に博士(生物資源科学)を取得されました。出身研究室である野生動物学研究室(岩佐真宏教授)に所属され、動物資源科学実験、野生動物学実習等を担当されます。先生の今後のご活躍を心から祈念いたします。



新任の明主助手(岩佐教授とともに研究室にて)

本年度の研究室配置と所属教員と特任教授は以下の通りです。

動物組織機能学

(山室 裕 教授、園田 豊 専任講師、相澤 修 専任講師)

伴侶動物学

(福澤めぐみ 准教授)

ミルク科学

(川井 泰 教授)

動物生殖学

(大西 彰 教授、三角浩司 准教授)

野生動物学

(岩佐真宏 教授、明主 光 助手)

草地学

(佐伯真魚 教授)

飼養学

(梶川 博 教授、浅野早苗 助教)

学科事務室

(深谷有紀 実習助手)

特任教授

(丹羽美次、村田浩一、増田哲也、小泉聖一、長嶺慶隆)

(山室 裕)

いもづる会

食品ビジネス学科

連絡先：学科事務室

0466-84-3420 事務局長 高橋 巖

E-mail: imozurukai@gmail.com

新型コロナ禍における校友会の動向

本年度はいもづる会役員改選の年でもあり、例年6月上旬に開催される幹事会および懇親会において新体制のお披露目をするなど、新たな出発となる時期でありました。しかし、ご案内のように、昨年度末から新型コロナが猛威を振るい、大学の授業は全てオンライン・オンデマンドとなり、年度当初の行事等は全て中止という状況になりました。

このような中、いもづる会としてはやむなく役員改選を延期し、現行役員の任期を1年間(2020年度末まで)延長する暫定措置を執らざるを得ませんでした。非常事態のもとでのやむを得ないことゆえ、皆様におかれては、どうかご了承のほどお願い申し上げます。

事務局体制につきましては、学科教職員の役割分担等の変更に伴い、大石前事務局長が任期満了により退任され、後任として高橋が事務局の責任者となりました。引き続きどうかよろしくお願い申し上げます。

事務局長 高橋 巖

事務局員 佐藤奨平

※大石前事務局長は、当面の間、事務局のサポートとしてお手伝いいただきます。

食品ビジネス学科の近況

【卒業生・新入生】

2019年度に140名の学生が卒業し、本学科卒業生は1万名を超えました。新型コロナの影響で、学位授与式(卒業式)はソーシャル・ディスタンスをとりながらの分散開催となり、卒業パーティなど別れを惜しむ場はなく、卒業生は式辞終了後直ちに帰宅を余儀なくされるなど、異例の卒業行事となりました。

本年度は146名の新入生を迎えました。しかし、新年度が明けても新型コロナの猛威は収まることなく、緊急事態宣言が発せられる中、授業開始が5月18日まで延期された後、全ての講義・演習・実習はオンライン・オンデマンドで行われることとなりました。新入生ガイダンスもオンデマンドとなったほか、恒例の学部スポーツ・フェスタなどの行事は全て中止、



マスク姿で行われた簡素な卒業式

サークル活動も停止するなど、特に新入生は、入学後の交流もままならないという状況に置かれました。これらは、学生の安全を確保しクラスター感染の発生を防止するためやむを得ない措置でありましたが、学生の皆さんには、大変な苦勞をかけることとなりました。

このため学科としては、少しでも学生間の交流に資するために、大学本部・学部の指示に基づく最大限の感染予防対策を講じながら、学生の登校機会をつくることとしました。まず新入生については、大学での講義や演習を体験できない状態が続いていたことから、8月上旬、ソーシャル・ディスタンスを取るため2班(全3日間)に分けて「キックオフミーティング」と「食品ビジネス基礎演習(基礎ゼミ)」及び「食品ビジネス学入門」の講義(2コマ)を対面により実施しました。これにより、大学での学びの体感と仲間づくりの機会の場を提供することができました。また、2～4年次のフィールドリサーチ・演習(ゼミ)についても、前期に1回ずつ対面によるゼミナールを実施しました。

後期についても、新型コロナの感染が収束しない中、引き続きオンライン・オンデマンドの授業が続くこととなりますが、後期は、感染予防対策を取りながら、実習なども実施していくこととなります。学科教職員一同、真に「学生ファースト」の精神で最大限の努力を続けますが、一日も早い新型コロナの収束と、賑やかな大学の姿が戻ることを祈念するのみです。

【教職員の動き】

2020年3月末日を以て、齋藤武至先生が定年退職されました。齋藤先生は1979年4月に本学科の教員に就任されて以来、経営学分野を基盤に、多くのゼミ生を指導され世に送り出すなど、41年の長きにわたり学科の教育



感染予防対策を講じながら開催した「新入生キックオフミーティング」と対面講義



オンラインとオフライン(対面)を併用した1年基礎ゼミ

研究のためにご尽力されました。これからも、どうかご指導をよろしくお願いいたします。

また、3月に、図書館司書の小森美香さん(統計資料室担当)が学部図書館勤務に専念されることになり、臨時職員の三宅摂子さんが退職、一方4月から、育児休職中であった巢籠和菜さんが復職されました。小森さん、三宅さん、お疲れ様でした。巢籠さん、引き続きどうかよろしくお願い申し上げます。なお、日本大学の海外派遣研究員として、久保田裕美先生が8月までの予定でアメリカおよびカナダにご出張していましたが、新型コロナの影響により3月に中途帰国され、学科に復職されています。

また8月には、高橋巖先生が自身の編著書『地域を支える農協一協同のセーフティネットを創る』(2017年、コモンズ)をまとめた業績により、日本協同組合学会賞学術賞を受賞しました。

【会員への各種案内方法の変更(お願い)】

昨年度から、会報や各種案内の従来の紙媒体での案内方法から、メールやホームページ等のネット媒体での案内方法に移行しております。

現在メール以外では、次のホームページとFacebookのコネクション方法がございます。是非Facebookの友達の申請をお願いいたします。また、住所変更、次年度以降ご案内する幹事会や懇親会等の参加申込みなどを受け付けております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(1) いもづる会ホームページ

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~imozuru/>「いもづる会」で検索

(2) いもづる会 Facebook (いもづる会 校友会)

<https://www.facebook.com/imozurukai/> Facebookで友達申請をしてください。

(佐藤 奨平)



あすなろ会

森林資源科学科

連絡先：木材工学研究室
0466-84-3763 事務局長 宮野 則彦
E-mail: asunaronichidai@gmail.com

平成31(令和元)年度あすなろ会活動報告

【役員会】

令和元年9月21日(土)にあすなろ会総会(10号館1階1011講義室)と懇親会を開催しました。総会では宮島吉夫会長の挨拶から始まり、平成30年度事業報告、監査報告、次年度の事業計画案及び予算案について審議され、承認されました。また、鍛代邦夫事務局長の後任として、新たに宮野則彦先生が事務局長として就任しました。

学科の近況

【卒業生による職業情報交換会】

本会は、3年生を対象に、森林・林業関連業界で活躍している卒業生を講師として招いて仕事内容や就職活動の経験等の話をしてもらうことで、学生の就職活動の第一歩を支援することを目的に、毎年開催しています。令和元年度は、12月4日に開催し、合計25名の卒業生にご参加いただきました。職業分野は、林野庁や県庁・役場等の公務員から、建材、住宅、土木、造園、コンサルタント等の民間企業、財団まで幅広く参加して頂きました。公務員試験の勉強のコツ、業界選びのポイント、就職関連情報の活用方法といった先輩方の実体験に基づく就活のアドバイスから、業務内容・仕事の実際まで、活発な情報交換が行われました。学生のアンケートでは、先輩方への感謝の気持ちと共に、「先輩だと質問しやすい」「具体的アドバイスがもらえた」「興味のある分野の話が聞けた」といったコメントが見られました。お忙しい中、ご参加いただいた卒業生の皆さま、本当にありがとうございました。なお、

この会の運営にあたり、あすなろ会からご支援を頂戴しております。



卒業生による職業情報交換会の様子

【卒業生・新入生】

新型コロナウイルスの影響により、年度末から例年とは異なる対応を余儀なくされています。本年3月25日には、137名(男子114名、女子23名)が本学科を卒業しましたが、通常の卒業式は中止となり、学科別に卒業証書等を授与するのみの簡略的なものとなりました。なお、研究室において成績優秀かつ研究室に貢献した学生への「あすなろ会会長賞」は例年通り授与し、9名に表彰状と記念品が贈られました。

4月には、137名(男子108名、女子29名)の新入生を迎えましたが、新年度開始は5月の連休明けまで延期となり、様々なイベントが中止となりました。前期授業は全学年オンデマンド方式(動画配信)となりました。オンデマンド方式となった森林資源科学実習では、教員が各自工夫を凝らした実習内容を配信しました。1年生は動画で基礎知識を学んだ後、自分の身の回りで樹木や昆虫、キノコ等を探して観察したりしました。な



冬季演習林実習の様子(2020年2月、水上)

お、今年度の1年生には、あすなろ会のご支援をいただいて、ハンディタイプの樹木図鑑「葉で見わかる樹木」を配布し、今後の実習や学びの場で活用してもらう予定です。

【学科の人事】

本年3月、森林植物・微生物学研究室の鍛代邦夫先生が退職されました。鍛代先生には、長きにわたり教育・研究活動を通じて多くの学生や大学院生を指導して頂きました。ブナ林の更新やシマガレ林等に関する研究に取り組み、教育では演習林をはじめ、熱帯林や雪山等の多様なフィールドで、学生が様々な体験をする機会を数多く作って下さいました。また、あすなろ会事務局長として、あすなろ会の運営にもご尽力いただきました。また、本年4月より、森林動物学研究室の岩田隆太郎先生が特任教授に就任し、同研究室の中島啓裕先生が准教授に昇格されました。学科事務室では伊藤由佳実習助手が退職し、4月より内海裕美さんをお迎えしました。

付属施設・演習林では、垂水秀樹技手と海老原 満技手が退職されました。長い間、演習林や樹木園等の維持管理とともに、実習や調査研究を通じて学生への教育にもご尽力いただきました。ありがとうございました。

あすなろ会ホームページ

あすなろ会ホームページが下記のアドレスに開設されています。宮島会長の挨拶、役員人事、会則、行事予定、近況の活動報告等の他、あすなろ会60周年記念行事として作成した「あすなろ会60年のあゆみ」も掲載されています。ぜひ、ご覧ください。

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~asunaro/index.html>

(園原 和夏)

桜水会

海洋生物資源科学科

連絡先：海洋環境学研究室

0466-84-3685 事務局 廣海 十朗

E-mail: hiromijuro@nihon-u.ac.jp

2020年度桜水会総会・懇親会の開催中止

例年6月中旬に開催しておりました、「桜水会総会」ならびに「懇親会」は昨今の状況を鑑みて、中止となりました。また、桜水会総会が開催できなかったため、事業報告、決算報告、監査報告、ならびに次年度の事業計画案、予算案などは、来年度以降に審議する運びとなりました。

学科・準会員への支援

コロナ禍への対応として、前期の授業期間は5月18日から9月5日までとなりました。また、座学の授業はオンデマンド授業となっています。前期開講科目である、「海洋生物資源科学概論」（1年次必修科目）の中で、将来就いてみたい職業を見出す職業研究の一環として、社会で活躍する本学科卒業生の体験談などを講演していただきました。8月18日に今井さくら氏（63期、東洋冷蔵株式会社）、8月25日に杉山太一氏（59期、北海道漁業協同組合連合会）と柳田雅貴氏（59期、ニチモウフーズ株式会社）の計3名の卒業生に演者をお願いいたしました。また、「特別講義」（3年次選択科目）では、本学科海洋生物資源応用コース（JABEE対応コース）の外部評価委員に委嘱されている長谷川勝治氏（20期、元焼津水産高校校長）、市橋 理氏（37期、アジア航測株式会社）、宮下一明氏（38期、株式会社東京久栄）、新井健次氏（18期、新井技術士事務所）および田角由香氏（日本ミクニヤ株式会社）の5名に、技術者教育の一環として講演していただきました。オンデマンド授業という慣れない状況にも関わらず、熱のこもった授業をしていただき感謝申し上げます。

このほか、今年度中に1年次の必修科目である「海洋基礎実習Ⅰ」実施における支援、1年次用学科Tシャツの作製、在学生の学会参加費等の補助や卒論コンペ（塚本賞）の支援、卒業生への記念品の贈呈等を実施する予定です。

学科の近況

【新入生・在学生】

本年4月に146名（男子104名、女子42名）の新入生を迎え、現在590名（男子399名、女子191名）の学部生が在籍しています。また、4専攻に跨る大学院には、博士前期課程19名（男子15名、女子4名）、および博士後期課程6名（男子4名、女子2名）が在籍しています。8月現在、4年次生の卒業研究活動には、研究室の人数制限が設けられていますが、大学院生は通常通りの研究活動を行えています。



卒論コンペ（塚本賞）での一コマ



2019年度学科内での卒業証書授与式での一コマ

例年4月に開催されていた新入生オリエンテーション、5月に開催されていたスポーツフェスタは中止となりましたが、9月上旬～中旬に改めて対面での1年次生オリエンテーション（教員紹介、キャンパスツアーなどを含む）および海洋基礎実習Ⅰの一環での学外実習（帆船乗船実習、磯釣り・釣果物の観察など）を計画しています。

【学科教員の異動】

海洋生物資源科学科では、2020年度は2名の教職員の方が新たに採用され、4月より柴崎康宏助教（水圏生物病理学研究室）および濱田奈々実習助手が着任されました。柴崎康宏助教が着任されたことに伴い、海洋生物資源科学科は各研究室に2名以上の教員が所属する8研究室体制となりました。学科事務室は、菊池真理子実習助手が異動され、神谷知花実習助手および濱田奈々実習助手の2名体制となりました。また、4月に糸井史朗准教授が教授に、井上菜穂子専任講師が准教授に昇格されました。



柴崎 康宏 助教



濱田 奈々 実習助手

桜水会事務局より

桜水会会員の皆様の近況や同期会等の活動のご様子を事務局までお知らせください。桜水会のホームページ（HP）は、海洋生物資源科学科 HP (http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~kaiyo/wp/o-sui_description/) 内に併設されております。同ウェブ上で連絡先等の変更手続きができますのでご活用ください。桜水会では、会報の原則オンライン化に向け、総会の開催通知および会報の発行通知時に申し込みいただくことになりました（2021年3月末締切）。また、今後、ハガキの送付からメール等の送付に移行するため、メールアドレスの登録をお願い致します。詳細は、桜水会 HP をご覧ください。

（福島 英登）

工 学 会

生物環境工学科

連絡先：生物生産システム工学研究室
0466-84-3795 梅田 大樹
E-mail: umeda.hiroki@nihon-u.ac.jp

会員の動向

正会員数は、令和元年度卒業生144名を加え、令和2年3月現在で7827名となりました。現役学生である準会員は、1年生157名(男131・女26)、2年生121名(男104・女17)、3年生128名(男106・女22)、4年生123名(男100・女23)で、合計529名(男441・女88)となっています。したがって、現役学生の男女比はおよそ4:1という状況になっています。



令和元年度学位記授与式の一コマ

学科の活動

2019年11月30日(土)にOB・OGによる就職支援セミナー(後援：工学会)を開催しました。民間企業からは19団体、官公庁や地方公共団体からは18団体(国、都道府県、市区町村)にご参加いただき、学部1年生から4年生、そして大学院生まで80名以上の学生さんが参加されました。ご参加いただいた企業や団体の方は在校生から見れば大学の先輩でもありますので、当日は企業や団体組織の説明だけでなく、就職活動時期に気を付けることなど身近な相談まで活発に行われていました。今回で2回目となった就職支援セミナーですが、これまで皆様には大変ご好評を頂いておりますので、今後も引き続き行っていきたくと考えています。

教員人事

4月1日付けで生物生産流通施設学研究室の都甲洙先生が教授に就任されました。また、同研究室の佐瀬勘紀先生、環境土木施設工学研究室の川本治先生が3月31日をもってご定年を迎えられ、4月1日付けで特任教授に就任されました。今後益々のご活躍を祈念いたします。

本年度の研究室の配置と所属教員(教授5名、准教授5名、専任講師4名、助手1名、特任教授3名、実習助手2名)は以下となります。

水資源環境工学研究室

(長坂貞郎教授、山崎高洋専任講師)

地域環境保全学研究室

(笹田勝寛准教授、對馬孝治准教授)

地球環境・資源リモートセンシング研究室(串田圭司教授、宮坂加理助手)

動物生態環境学研究室

(三谷奈保専任講師)

建築・地域共生デザイン研究室

(栗原伸治教授、藤沢直樹専任講師、糸長浩司特任教授)

環境土木施設工学研究室

(斉藤丈士准教授、川本治特任教授)

生物生産流通施設学研究室

(都甲洙教授、佐瀬勘紀特任教授)

生物生産システム工学研究室

(宮本眞吾教授、川越義則准教授、梅田大樹専任講師)

バイオメカトロニクス研究室

(内ヶ崎万蔵准教授)

学科事務局

(中嶋綾香実習助手、池田真有花実習助手)



就職支援セミナーの一コマ(2019年11月)



セミナー後の工学会交流会の様子

学科への支援

工学会では、準会員である現役学生に向けた支援を行っています。令和元年度の卒業生には、卒業記念品(印鑑付きボールペン)の贈呈、及び卒業生表彰(工学会長賞)を行いました。今年度の工学会長賞は下迫操緒さん、長谷川 敬さん、高橋優弥さんの3名となり、本来であれば謝恩会の場で授与が行われるところでしたが新型コロナウイルスの影響で謝恩会が中止となったことから、学位記授与式にて受賞者の公表のみ行われました。なお、謝恩会の中止に際するキャンセル料の一部については謝恩会開催補助金をもって支援しました。

事務局より

郵送費の低減を図るために、会報のホームページでの閲覧を可能としつつ、これまで通りの郵送を希望する方以外には発送しないことと致します。会員の皆様には下に示します工学会ホームページ等での情報発信に努めてまいります。

下記E-mailアドレスにメールいただければ、定期的な情報も配信いたしますので、ご活用いただきますようお願い申し上げます。

E-mail: info@bae-kougakukai.org
(工学会公式)

FAX: 0466-84-3836 (地域環境保全学研究室 笹田直通)



工学会ホームページ

<http://www.bae-kougakukai.org>

お問い合わせページ

<http://www.bae-kougakukai.org/inquiry2/postmail.html>

(梅田 大樹)

F T 会

食品生命学科

連絡先：食品資源利用学研究室
0466-84-3980 成澤 直規
E-mail: narisawa.naoki@nihon-u.ac.jp

F T 会活動報告

【F T 会理事会および総会の開催】

例年4月に本学湘南キャンパスにおいて開催されているF T 会 理事会について、本年度はコロナ感染症の影響によりメールによる議決となりました。これにより令和2年度事業計画案および会計収支予算案等に関して承認されました。例年6月に開催される総会についても延期されております（実施日未定）。

【準会員（在学生）への活動】

F T 会では準会員の活動援助として、4年生へは研究室対抗スポーツ大会懇親会の補助と卒業記念品の贈呈を行いました。4年生の学業優秀者に贈られるF T 会長賞には君島愛美さんが選出されました。本年度の卒業式はコロナ感染症対策のため簡略化した形式で実施されております。全学生に対して資格試験受験料の補助も例年通り実施しました。例年1年次学生を対象に実施されるフレッシュマンセミナー、学部スポーツフェスタに対して補助を行っていましたが、本年度はコロナ禍によりいずれも開催が中止となっております。



F T 会長賞を受賞した君島愛美さん
（左：F T 会事務局長 陶 慧先生）

学科の近況

【在学生と卒業生】

令和元年度はF T 会 55 期生 142 名の学生が卒業し、社会に巣立っていきました。令和2年度 新入生 146 名（男性 69 名・女性 77 名）を迎え、2 年生 142 名（男性 65 名・女性 77 名）、3 年生 138 名（男性 59 名・女性 79 名）、4 年生 140 名（男性 64 名・女性 76 名）と合わせ 566 名が在籍しております。



令和元年度 卒業式の様子

令和2年度の前期はコロナ禍のため、通常の対面授業に代わりオンデマンド授業を実施しております。1 年生は8月5日に「食品生命学入門」の講義（スクーリング）において初登校を迎え、ガイダンスやキャンパスツアーなどを実施しました。



令和2年度 1年生のキャンパスツアーの様子
（8月5日実施）

【学科人事】

小林りか先生（食品資源利用学研究室）が助教に昇格されました。実習助手 鈴木友里さんが任期満了に伴い退職されました。鈴木さんにはF T 会の運営にご尽力いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

令和元年度 食品生命学科は以下の構成となっております。

○ 12 号館 5 階

食品衛生学研究室
（荻原博和教授、河原井武人専任講師、京井大輔助教）

食品創成科学研究室
（阿部申准教授）

食品資源利用学研究室
（鳥居恭好准教授）

食品生命工学研究室
（今井正直教授、陶慧専任講師）

食品栄養学研究室
（山形一雄特任教授）

学科事務室
（鈴木友里実習助手、井上梢実習助手）

○ 12 号館 6 階

食品資源利用学研究室
（竹永章生教授、成澤直規准教授、小林りか助教）

食品生命機能学研究室
（細野朗教授、津田真人専任講師）

食品栄養学研究室
（長田和実教授、大畑素子専任講師）

食品分析学研究室
（松藤寛教授、大槻崇専任講師）

事務局より

F T 会のホームページ（<http://ftkai.net/>）では総会のご連絡など各種イベント情報を公開しています。また、F T 会では同窓会・同期会の開催に際し、一部補助を行っています。ホームページからお問い合わせください。

（成澤 直規）

拓友会

国際地域開発学科

連絡先：熱帯資源作物研究室

0466-84-3468 事務局長 倉内 伸幸

E-mail: kurauchi.nobuyuki@nihon-u.ac.jp

令和2年度幹事会および 総会の報告

令和2年6月1日～6月30日に、WEBによる令和2年度拓友会幹事会および総会が開催されました。第1号議案として、令和元年度活動報告ならびに決算報告、第2号議案として、令和2年度活動計画案ならびに予算案が審議され、事務局提出案が承認されました。

令和元年度拓友賞授与

令和元年度の拓友賞は、福永もえさんが国際地域開発学科より推薦され、令和2年3月25日に実施された卒業証書伝達式の席上、表彰状ならびに副賞が授与されました。



内田会長(左)、福永もえさん(右)

拓友会会長選出報告

内田俊太郎会長の任期満了(2017年4月1日～2020年3月31日)にともない、次期会長選出を拓友会会則第8条にしたがい、2020年1月25日にWEB幹事会を開催しました。合議の結果、内田俊太郎氏が再任されました。

私にもできる SDGs プロジェクト開始

SDGs(Sustainable Development Goals)とは2015年に国連で採択された、誰一人として取り残さない持続可能な社会をつくるための国際目標で、2030年までに世界的な貧困や飢餓の撲滅、気候変動への対応、男女平等社会の実現など17の目標達成を目指すものです。

SDGsの開発目標は国際地域開発学科の教育目標に合致する部分が多く、学生が主体的に活動できるような支援システムを拓友会が提案します。

令和2年度 学科海外研修旅行

学科主催の海外研修旅行は、新型コロナウイルスの拡大が懸念され、日本大学法人本部の指導により全て中止となりました。

卒業者の進路状況について

令和元年度卒業者の進路状況は、就職119名、進学2名、その他18名、就活中3名となり、就職希望者(122名)に対する就職率は97.5%となりました。

青年海外協力隊派遣状況

本学科を卒業した以下の5名が、それぞれ青年海外協力隊として派遣されています。また、派遣中であった平成27年度卒勝亦保奈美が令和2年1月に帰国しました。ただし、新型コロナウイルスが協力隊派遣国にも蔓延しているため、派遣中だった5名は一時帰国しています。また、今年度派遣予定だった2名は現在待機中で次年度派遣となる見込みです。

【派遣中】

平成30年卒 木島史暁(ウガンダ:稲作)

平成30年卒 小林さな子(ザンビア:野菜栽培)

平成30年卒 子田利理伊(ベナン:野菜栽培)

令和元年卒 衛藤 皐(ウガンダ:稲作)

令和元年卒 中村 遼(ジャマイカ:野菜)

【帰国】

平成27年卒 勝亦保奈美(ルワンダ:稲作)

【派遣予定】

令和2年卒 辻 愛友(ウガンダ:稲作)

令和2年卒 山崎陽介(ウガンダ:稲作)

【留学情報】

2019年度

3年 斎藤佳奈(アメリカ・ウィスコンシン)

3年 深沢優太(インドネシア)

3年 杉村真季(インドネシア)

3年 高木衿樺(インドネシア)

3年 栗原桃子(アイルランド)

3年 遠藤友香(フィリピン)

2020年度

4年 鈴木大介(アメリカ・オレゴン)

4年 永野 巧(オーストラリア、ニュージーランド)

行事

例年実施されている新入生を対象とするオリエンテーションとスポーツフェスタは、新型コロナウイルスの拡大が懸念され、学部本部の指導により全て中止となりました。

台湾の大学で招待講演

倉内伸幸主任教授(S62卒)が台湾南部屏東県の国立屏東科技大学の要請により、令和元年9月9日に雑穀研究に関する最近の知

見として招待講演を行いました。学部長はじめ教員、大学院生50名以上が集まり多くの質疑が交わされました。倉内教授は屏東科技大学教授頼宏亮博士、林資哲博士らと台湾少数民族が栽培している雑穀や熱帯野菜の調査研究を続けており、今後の研究成果が期待されます。



倉内伸幸主任教授(中央)

倉内主任教授がテレビ出演

令和元年9月24日放送のNHKBSプレミアム「美と若さの新常識」第13回「発見!雑穀ごはん、真の実力」に倉内主任教授が解説者として出演しました。倉内主任教授は日本雑穀協会会長、雑穀研究会会長を務めており、雑穀研究の第一人者でこれまでもテレビや雑誌に数多く取り上げられています。また、国内だけでなくアジア、アフリカの雑穀研究に精力的に取り組んでおられます。

在校生の近況

令和2年6月現在、
1年生 150名(男子109名・女子41名)、
2年生 132名(男子93名・女子39名)、
3年生 139名(男子93名・女子46名)、
4年生 131名(男子86名・女子45名)
の合計552名(男子381名・女子171名)が在籍しています。

着任

朽木昭文先生の後任として、アジア経済研究所から石田正美教授が着任されました。東南アジアのなかでも特にインドネシア経済の研究に造詣が深く、学生教育に活躍が期待されます。



石田 正美 教授

退職

定年により、朽木昭文先生、水野正己先生、溝辺哲男先生が退職されました。長年に亘り、学科の学生教育にご尽力いただきました。ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

(山下 哲平)

応用生物科学科校友会

応用生物科学科

連絡先：生体分子学研究室
0466-84-3353 事務局長 明石 智義
E-mail: akashi.tomoyoshi@nihon-u.ac.jp

学科の近況

【在学生と卒業生】

応用生物科学科の在籍学生数は531名、学年別では1年生142名(男86名、女56名)、2年生130名(男85名、女45名)、3年生126名(男81名、女45名)、4年生133名(男84名、女49名)となっています。昨年度は119名の学生が卒業し、社会に巣立っていきました。卒業生のご活躍を期待します。

【学科教員の動き】

令和2年3月に分子微生物学研究室の砂入道夫教授が定年退職されました。先生には、学科が設立された昭和63年度に助手として着任以来、本学科のために長年ご尽力いただきました。誠にありがとうございました。また実習助手として学科事務、学生実習にご尽力戴いた吉田麻友さんが退職しました。研究室体制や各教員の紹介等はホームページをご覧ください。<<https://www.abs-brs.com>>

学科への支援事業

これまで学科校友会では、準会員へ向けて新入生歓迎会、スポーツフェスタ、卒業記念品などの支援を行ってきました。しかし今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、入学式、スポーツフェスタ、オープンキャンパスなどは軒並み中止になりました。

令和元年度の卒業式も簡素化され、慌ただしい中での学位授与・伝達式となりました。また緊急事態宣言が発令されたため、令和2年の前期の開講科目は、講義と学生実験のすべてがオンデマンドのビデオ配信と

なりました。特に新入生は一度も入校することなく、また学科の教員とも顔を合わせることもなく、講義を受講することになりました。8月初旬に加野先生の「動物生命科学概論」ではじめて対面講義が行われ、学内で講義を受け、同級生と顔を合わせる最初の機会となりました。

また8月には2年次の学生実験が4号館の実験室で行われました。地元へ帰省している学生がいたため、出席者は8割程度でした。教員及びティーチングアシスタントは、フェイスシールドとマスクをして実験の指導に当たっていました。



新入生の対面授業の様子



学位授与・伝達式での学部長賞の授与



学生実験の様子

事務局より

事務局では会員の皆様からのご意見、ご要望、ご提案をお待ちしています。また住所の変更、改姓、問い合わせ等ございましたらご一報下さいますようお願い致します。

(明石 智義)

くらしの生物学科校友会

くらしの生物学科

連絡先：くらしの園芸研究室

0466-84-3743 事務局長 新町 文絵

E-mail: shinmachi.fumie@nihon-u.ac.jp

くらしの生物学科の近況

くらしの生物学科(BDL: Department of Bioscience in Daily Life)では、4月に近藤先生が准教授に、金澤先生が助教に昇格されました。また3月に学科事務室の保屋野藍さんが退職されました。本年度は、

くらしのバイオ

安齋 寛 教授

炭山 大輔 助教

くらしの微生物

光澤 浩 教授(学科主任)

相澤 朋子 専任講師

食と健康

山下 正道 准教授

近藤 春美 准教授

住まいと環境

小谷 幸司 教授

小島 仁志 助教

島田 正文 特任教授

動物のいるくらし

恒川 直樹 教授

金澤 朋子 助教

くらしの園芸

新町 文絵 教授

水野 真二 専任講師

渡邊 慶一 特任教授

学科事務室

高橋 唯 実習助手

の15名で運営しています。

なお本年7月1日現在で4年生83名、3年生85名、2年生79名、1年生86名の計333名の準会員が在籍しています。

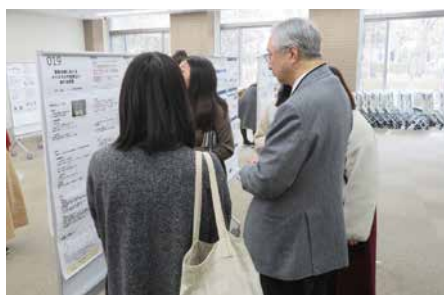
BDLは1学年の定員が80名と少人数であることを活かし、フィールドワークや学生による発表の機会が多いカリキュラムを組み、学生の自主性や社会性、コミュニケーション能力などを育み、広くかつ深い知識を身につけた「スペシャルなゼネラリスト」育成を目指します。1月24日には3年次の必修科

目である「ボランティア活動」の成果発表会が開催され、次年度に履習する2年生も参加して、11カ所の実習先での研鑽について報告しました(写真1)。



「ボランティア活動」の成果発表会の様子(写真1)

2月14日には第2回の学科卒業研究発表会が昨年と同様にポスター発表形式で開催されました(写真2)。4年生だけでなく、3年生、2年生も参加して、活発な質疑応答が行われ、活気のある1日となりました。



「卒業研究発表会」のポスター発表の様子(写真2)

3月25日に82名が卒業し、新たに校友となりました。就職状況も希望者全員が就職し、このうち公務員は2都県に合格と好調でした。この他に3名が本学および他大学の大学院に進学しました。卒業式は、折からの新型コロナウイルス感染症の影響で全員マスク着用での学位記授与式になりました(写真3)。感染拡大防止のために、卒業生は学位記授与の後は集まらないように、またすぐに帰宅するよう求められましたが、マナー良く守ってくれたことをとても誇らしく思います。



学位記授与式でも全員マスク着用でした(写真3)

学科インスタグラム: 4月以降、学部への入構制限に伴って互いに顔を合わせる事が出来なくなったことから、4月上旬から前期授業開始の5月中旬に「くらしエール」として教員および学生有志でBDLのインスタグラムにメッセージ動画を投稿しました。8月からは「学び紹介リレー」として学科科目の紹介を順次投稿中です。インスタグラムで「くらしの生物学科」を検索して、ぜひ御覧下さい。

くらしの生物学科 校友会の活動報告

令和元年11月23日に第1回の校友会総会・懇親会を開催しました。久しぶりに会う1期生と、準会員の4年生と3年生が参加して、和やかな会になりました。本年度の総会については新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら開催の時期・方法を検討中です。

準会員支援として4年生の卒業アルバム購入補助および学科への寄贈、卒業パーティ参加費を補助していますが、今年の3月は新型コロナ感染症の影響で卒業パーティを開催できませんでした。直前の中止となったため予定していた補助費は、中止にかかる経費に充てさせていただきました。

また例年、準会員支援としてスポーツフェスタで1年生が着るTシャツを購入しておりますが、今年はスポーツフェスタが中止となり、フレッシュマンセミナーもFNECでの学外研修は実施できませんでした。形を変えてグループワークを実施し、発表会の代わりはプレゼン動画を作成して提出する方法にしました。今年はデザインだけでなく、Tシャツの活用方法も考えてもらっています。デザインが決まったら、例年通りTシャツを作成して配布予定です。

くらしの生物学科校友会事務局より

くらしの生物学科は、現在ホームページ(<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~kurashi/index.html>)およびFacebookやインスタグラムなどで情報を発信しています。御連絡は事務局長までお願い致します。

(山下 正道)

支部だより

令和元年度宮城県支部の近況

連絡先 〒981-3212 仙台市泉区長命ヶ丘3-30-14
支部長 鎌田 雅敬 事務局長 早坂 睦雄
TEL.022-378-6592 FAX.022-378-6592
携帯電話：080-5579-5456
E-mail: mutsuo-hayasaka.1506@jcom.zaq.ne.jp

本会はR2年度で17周年を迎えました。

■6.22. 第16回総会・懇親会を市内「エスカイヤクラブ仙台店」で開催し、会員11名、学部校友会本部より内田俊太郎会長をはじめ来賓者4名のご臨席をいただき審議され、H31年度決算・R元年度計画予算について了承されました。



宮城県支部第16回総会

■学部校友会総会・懇親会

7.13. 生物資源科学部2号館で開催、鎌田雅敬支部長が出席。

■NU校友会宮城県支部研修会・総会・懇親会

7.24. 「仙台ガーデンパレス」で開催、鎌田支部長の他、5名が出席。

■山形県支部開催「第6回仙山交流会」

10.6. 山形県天童市で開催され、出羽桜酒造「出羽桜美術館」で朝鮮の食器酒器文化財を見学、酒蔵「出羽桜」で日本酒の試飲、「中島清吉商店」で将棋駒の製造を見学、「天童ワイン」工場ではワイン学を学び、6種類を試飲、「道の駅天童温泉」にて土産物を物色。会食は天童市内の「いろは寿司」で美味しいお寿司に舌鼓を打ち、ビールや日本酒や金鶏ワインをいただきながらの酒宴の中、両県で自己紹介を行い、懇談し和気藹々の中でお開きとなりました。参加者は山形県支部9名、宮城県支部6名でした。



学部校友会山形県支部「仙山交流会」

■役員会・忘年会

12.27. 料亭「ひょうご」で開催され、10名の会員が出席。

■NU校友会宮城県支部R2年新年名刺交換会

R2.1.29. 「仙台ガーデンパレス」で開催。鎌田支部長他3名が出席。

■R2年度の主な会議・行事等日程

※総会、懇親会：6.20. →コロナで中止

※学部校友会総会・懇親会：7.11. 藤沢市→コロナで中止

※NU校友会宮城県支部研修会・総会・懇親会：7.8. →コロナで中止

※第6回仙山交流会 校友会宮城県支部が担当：→コロナで中止

※：全日本大学女子（杜の都）駅伝：出場時は応援を実施。

※役員会・忘年会：12.26. 市内料亭「ひょうご」で予定

※NU校友会宮城県支部R3年新年名刺交換会：R3年1月予定。

※生物資源科学部校友会山形県支部のR2年度総会・懇親会への出席

■会員の状況（R2年現在37名）

※卒業生・富嶽会2名・紫友会1名・角笛会2名・満喜葉会5名・いもずる会5名・あすなろ会4名・桜水会4名・工学会6名・FT会4名・拓友会3名・湘南校友会1名・賛助会員：提携校東北高等学校

（文責者 早坂睦雄）

山形県支部の近況

連絡先 〒990-2433 山形市鳥居ヶ丘4-55
日本大学山形高等学校 小嶋 佑治
TEL.023-641-6631 FAX.023-641-6634
E-mail: kozimay.yuji@nihon-u.ac.jp

■仙山交流会

恒例となった宮城県支部との「仙山（宮城・山形）交流会」を令和元年10月6日（土）に開催。宮城県支部から6名、山形県支部から9名の総勢15名の参加者がありました。今回は天童市の魅力を楽しむ企画で、はじめに出羽桜美術館を見学しました。出羽桜酒造の三代目仲野清次郎氏が永年に亘って蒐集してきた古韓国・新羅・高麗・李朝期の陶磁器と工芸品等が伝統的日本家屋の木造瓦葺の母屋と蔵座敷に展示されており、みなさん興味深く鑑賞しました。そのあとは、将棋の駒の製造元「中島清吉商店」を訪れ、駒の製造実演を見学しました。（天童は将棋駒生産の全国の約9割以上を占めています）次に向かったのは天童ワイン。山形県内には14のワイナリーがあり生産量は全国第4位となっています。ワインの知識を教えてもらいながら何杯も試飲を楽しみました。道の駅天童温泉で山形のお土産を買った後、「いろは寿司」で懇親会です。地酒とワインを飲みながらお互いの支部発展と今後さらに交流を深めることを誓い大いに盛り上がりしました。

（文責 渡部幹事長）



仙山交流会1



仙山交流会2

神奈川県支部の近況

連絡先
〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866
日本大学生物資源科学部 食品生命学科
食品資源利用学研究室 事務局長 鳥居 恭好
E-mail: tori.yasuyoshi@nihon-u.ac.jp

令和2年を迎え正月2、3日「箱根駅伝」の応援を神奈川県支部としておこなった。優勝の青山学院から25分ほど遅れ、本学は18位と芳しくなかった。

日本大学事業計画の一環として実習農場整備工事が始まった。農場内にある老朽化した建物や附属設備を令和4年度までに新規更新する大工事である。そのため、今まで耕作していた「一坪農園」は使えなくなった。また、本支部の農作業ビニールハウスの撤去計画案が学部より提示され、活動基盤が危ぶまれる一大事であった。また、新型コロナウイルス感染症拡大に関し、4月7日緊急事態宣言が発出された。本支部も活動の休止を余儀なくされ非常事態が重なった。

「一坪農園」の代替地（通称17号地、約60坪）に、昨冬小麦を植えた。緊急事態宣言解除後収穫し、乾燥作業を行った。7月中旬、脱穀機作業を行った。13.5kgの収穫であった。秋に製粉してうどんかラーメンを打ち、試食を楽しみにしている。



小麦の脱穀

今年は天候不順が続き全ての野菜の生育に変調をきたした。レタス、ハクサイ、モロヘイヤの苗床育成は高温のため十分に発芽できず、菊の苗もうまくいかない状況になった。8月に入り高温の天候が続き17号地のサトイモ、インゲン、ナス、ミニトマトな



植松恒美氏 落花生の収穫

■会員紹介

植松恒美

農芸化学科（現：生命化学科）

昭和44年卒業

山形大学で①耕作放棄地有効利用②畜産業臭気対策③高齢者環境整備を目的した東北創生研究所が設立され、山形県金山町・山形大学・㈱でん六の共同でスタートした。本校友会員の農芸化学科卒業後長く㈱でん六で落花生を研究していた植松恒美氏に協力依頼があり、最上地方の創世のためにまず真室川町で落花生が出来ないかを調査した結果、土壌としてはこの近辺は鳥海山、月山の火山灰土で石ころが少なく、サラサラしている土壌のために栽培に支障はない。あとはトータル温度だけと考え、試験栽培を行った結果、非常にきれいで味の良い落花生が収穫され、収量も千葉、茨城に負けないそれ以上の量で驚いた。

さらに、落花生は連作障害防止策として世界で栽培されていますが、連作障害が顕著に現れて困っている作物が山形県特産の「紅花」で連作を行うと殆ど収穫できないくらいになり、化学薬品や肥料では防止できないと聞き、無理という畑に落花生を2年間栽培しその後再び紅花を栽培した結果、連作障害が止まったという結果が出ました。今後の山形県の農業に明るい希望が見えてきたように感じました。

（文責 池田支部長）



野菜類の生産活動

どへの水やりが連日続いた。

湘南六会ブランド野菜を会員の食卓に供することができるよう、自然農法を積極的に推進していきたい。学部支援体制の下、自然農法を基盤とした野菜類の生産活動は卒業生による学部や地域への社会的な還元であると継続実践している。

4月上旬、亀井野小学校近くに、約150坪の農地を借りることができた。現在100株ほどのサツマイモを栽培している。9月には残りの土地に蕎麦を植えようと準備をしている。周りもやはり農地であり、雑草対策などをきちんと行わなければならない。会員のなかに複数蕎麦の打ち手があり、湘南六会ブランド蕎麦を食べることを楽しみにしている。

夢と希望をもって、皆で無理せず頑張っていきたい。



ビニールハウスでの歓談

（支部長 稗貫 峻）

日本大学生物資源科学部校友会 役員名簿

(令和2年4月1日現在) (敬称略)

役 職	氏 名	所 属 分 会	学 科 名
会 長	内田俊太郎	拓 友 会	国際地域開発学科
副会長	長島 武志	富 嶽 会	生命農学科
〃	高橋 善人	紫 友 会	生命化学科
〃	鳥海 弘	角 笛 会	獣医学科
〃	小杉 幸彦	満 喜 葉 会	動物資源科学科
〃	横川 屹	いもづる会	食品ビジネス学科
〃	宮島 吉夫	あすなろ会	森林資源科学科
幹事長	阿部 和時	あすなろ会	森林資源科学科
幹 事	佐々木 透	富 嶽 会	生命農学科
〃	磯部 勝孝	〃	〃
〃	藤岡 智子	紫 友 会	生命化学科
〃	荻原 淳	〃	〃
〃	井上 亮一	角 笛 会	獣医学科
〃	渋谷 久	〃	〃
〃	山本 捷	満 喜 葉 会	動物資源科学科
〃	園田 豊	〃	〃
〃	藤井 正気	いもづる会	食品ビジネス学科
〃	高橋 巖	〃	〃
〃	東郷 聖史	あすなろ会	森林資源科学科
〃	宮野 則彦	〃	〃
〃	黒澤 慶司	桜 水 会	海洋生物資源科学科
〃	田中 英臣	〃	〃
〃	今川 莊浩	〃	〃
〃	酒川 和男	工 学 会	生物環境工学科
〃	工藤 謙一	〃	〃
〃	笹田 勝寛	〃	〃
〃	関村 具由	F T 会	食品生命学科
〃	廣川 隆一	〃	〃
〃	陶 慧	〃	〃
〃	北原 幸典	拓 友 会	国際地域開発学科
〃	倉内 伸幸	〃	〃
〃	近藤 明宏	応用生物科学科校友会	応用生物科学科
〃	土屋 徳司	〃	〃
〃	明石 智義	〃	〃
〃	安齋 寛	くらしの生物学科校友会	くらしの生物学科
〃	光澤 浩	〃	〃
〃	新町 文絵	〃	〃
監査役	野村 和成	富 嶽 会	生命農学科
〃	長谷川 功	紫 友 会	生命化学科
〃	木島 実	いもづる会	食品ビジネス学科

会報編集委員名簿

(令和2年4月1日現在) (敬称略)

所 属 分 会	氏 名
富 嶽 会	穴戸理恵子
紫 友 会	荻原 淳
角 笛 会	大野真美子
満 喜 葉 会	山室 裕
いもづる会	佐藤 奨平
あすなろ会	園原 和夏
桜 水 会	福島 英登
工 学 会	梅田 大樹
F T 会	成澤 直規
拓 友 会	山下 哲平
応用生物科学科校友会	明石 智義
くらしの生物学科校友会	山下 正道



校友会からのお知らせ

1 卒業生の動向について

平成22年度から10ヶ年の卒業生数及び延べ卒業生数は次表のとおりです。

(単位：人)

区 分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
卒業生数	1,801	1,981	1,865	1,984	1,824	1,848	1,675	1,704	1,799	1,670
内 訳	学部生	1,546	1,703	1,603	1,699	1,600	1,603	1,614	1,715	1,581
	短大生	123	157	150	153	144	—	—	—	—
	大学院生	132	121	112	132	80	72	90	84	89
延べ卒業生数	87,444	89,425	91,290	93,274	95,098	96,946	98,621	100,325	102,124	103,794

(説明) 短期大学部は平成27年度をもって廃止されました。

2 令和2年度の藤桜祭の開催について

令和2年度の藤桜祭は、10月24日(土)及び25日(日)の両日学内で開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

3 ホームカミングデーの開催について

校友各位に旧交を暖めていただく場として、第1回ホームカミングデーを藤桜祭の開催初日(10月24日)に開催すべく準備しておりましたが、藤桜祭の開催が中止となりましたのでホームカミングデーの開催も中止となりました。

4 令和3年度の通常総会及び懇親会の開催について

(1) 通常総会

ア 日 時：令和3年7月10日(土) 午後2時から

イ 場 所：日本大学生物資源科学部 2号館1階 211 講義室

(2) 懇親会

ア 日 時：同日 午後4時から

イ 場 所：日本大学生物資源科学部 食堂棟3階

なお、時間、場所等は変更することがありますので、予めご了承ください。

5 学部校友会創立70周年記念誌について

令和2年3月に発刊しました記念誌は、学部校友会のホームページでご覧になれるよう現在準備中です。

購入ご希望の方は各学科校友会が管理していますので、直接お申し込みください。

ただし、部数に限りがありますので売り切れの場合はご容赦願います。

◎ お願い

生物資源科学部には会員各位が卒業されました各学科毎に校友会があります。

本会報は、各学科校友会の会報編集委員及び都道府県支部の会報執筆担当者の方々のご協力を得て学部校友会の広報委員会が作成しております。

したがって、掲載記事の内容に関するお問い合わせ、住所変更の届け出、あるいは今後の会報発送不要等のご連絡は、学部校友会事務局にご連絡いただきましても対応できない場合がありますので、直接卒業された学科の校友会、又は、支部の記事掲載ページに記載してあります連絡先までお願いします。

発行所

日本大学生物資源科学部 校友会 〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866

TEL:0466-84-3799 FAX:0466-84-3531 E-mail:brs.koyukai@nihon-u.ac.jp

印刷所：(株)デイ・エム・ビー 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町561 TEL：03-5292-6800(代) FAX：03-5292-6871